

第5回調査
5月1日現在の就職活動状況
1. 5月1日現在の内定状況

5月1日現在のモニターの内定率は45.8%で、前年同期を10.6ポイント上回った。前年の内定率が低かったのは、東日本大震災後、大手企業を中心に選考開始を5月や6月へと遅らせる動きが広がったため、今回は震災前の一昨年(2011年卒)の47.8%をやや下回る数字だった。採用広報開始が2カ月遅くなった結果、4月以前に内定出しをする企業が少なくなった点と、選考解禁直後の4月上旬に大手企業の選考が集中し、選考を受ける企業数が限られた学生がいた点などが、その要因として挙げられる。

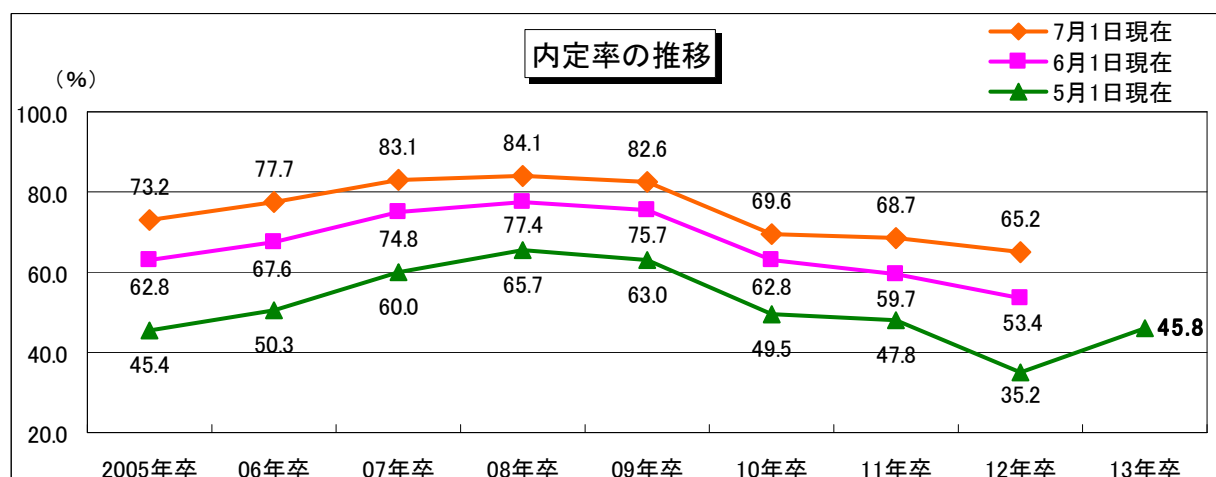
内定取得学生のうち就職活動を継続しているのは35.4%。後に本命企業の選考が控えていた前年(58.6%)に比べれば低いが、一昨年の24.6%に比べると10ポイント以上高い。選考までの準備期間が短縮したことで早期に志望業界・企業を決定し、内定後に迷いが生じて入社を決断できない可能性がある。そのような「やり切った感の薄い」内定保持者が今後どう動いていくか、動向が注目される。

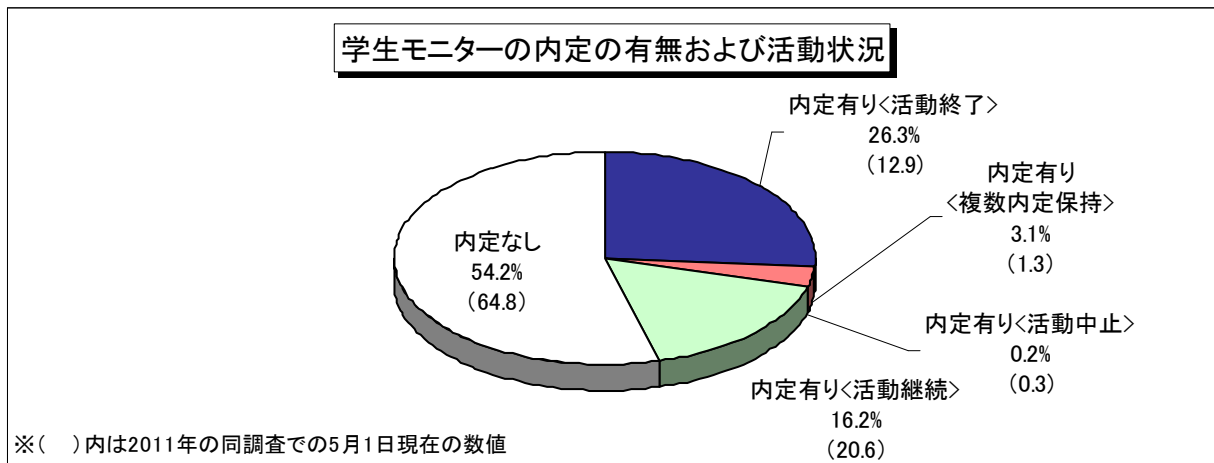
5月1日現在の内定の状況

*「内定」には、内々定を含む (%)

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	国公立	私立
内定有り		45.8 (35.2)	50.6 (35.3)	41.1 (33.9)	46.2 (36.1)	40.3 (35.2)	50.4 (41.9)	42.3 (30.0)
内定なし		54.2 (64.8)	49.4 (64.7)	58.9 (66.1)	53.8 (63.9)	59.7 (64.8)	49.6 (58.1)	57.7 (70.0)
内定社数(平均/社)		1.8 (1.5)	1.9 (1.7)	1.8 (1.3)	1.7 (1.6)	1.7 (1.3)	1.8 (1.5)	1.8 (1.5)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	57.3 (36.8)	55.1 (29.0)	54.6 (26.6)	63.7 (52.4)	54.0 (45.9)	61.5 (45.3)	53.5 (27.7)
	活動は終了したが複数内定保持	6.7 (3.8)	8.3 (3.1)	9.2 (3.2)	2.5 (3.8)	6.0 (8.1)	7.5 (4.2)	5.9 (3.4)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.5 (0.8)	0.5 (1.5)	0.8 (0.0)	0.6 (1.0)	0.0 (0.0)	0.4 (1.1)	0.7 (0.6)
	就職活動継続	35.4 (58.6)	36.1 (66.4)	35.4 (70.2)	33.1 (42.9)	40.0 (45.9)	30.6 (49.5)	39.9 (68.4)

※()内は2011年の同調査での5月1日現在の数値





2. 内定を得た業界

内定者を得た人に、内定企業の属する業界を聞き、上位業界を表にまとめた(全40業界。複数回答あり)。昨年は、被災した学生などへの配慮から、主に大手金融が5月、大手メーカーが6月へと選考開始時期を遅らせた影響が顕著だったが、今年はいわゆる通常のスケジュールに戻り、採用規模の多い業界などが、上位に来ている。

内定を得た業界(文系)

(%)

2013年卒			2012年卒			2011年卒		
1	銀行	29.2	1	銀行	21.8	1	銀行	30.7
2	保険	16.2	2	情報処理・ソフトウェア	11.6	2	情報処理・ソフトウェア	16.1
3	情報処理・ソフトウェア	13.3	3	建設・住宅・不動産	10.7	3	保険	11.8
4	コンビニエンス・ストア	11.3	4	情報・インターネットサービス	10.2	4	運輸・倉庫	9.4
5	建設・住宅・不動産	9.5	5	教育	8.4	5	証券・投信・投資顧問	7.9
	情報・インターネットサービス	9.5	6	運輸・倉庫	7.1	6	商社(専門)	7.1
7	通信関連	7.5	7	信用金庫・信用組合	6.7		水産・食品	6.3
8	その他サービス	7.2		商社(専門)	5.3	7	医薬品・医療関連・化粧品	6.3
9	証券・投信・投資顧問	6.4	8	電子・電機	5.3		電子・電機	6.3
10	水産・食品	5.8		コンビニエンス・ストア	5.3		機械・プラントエンジニアリング	5.9
						10	信用金庫・信用組合	5.9
							専門店	5.9

※「その他サービス」=セキュリティサービス、介護・福祉サービス、冠婚葬祭などのサービス業

内定を得た業界(理系)

(%)

2013年卒			2012年卒			2011年卒		
1	情報処理・ソフトウェア	23.7	1	建設・住宅・不動産	19.7	1	情報処理・ソフトウェア	33.0
2	建設・住宅・不動産	17.4	2	情報処理・ソフトウェア	17.6	2	電子・電機	16.7
3	医薬品・医療関連・化粧品	14.0	3	情報・インターネットサービス	14.1	3	建設・住宅・不動産	10.0
4	情報・インターネットサービス	12.6	4	医薬品・医療関連・化粧品	12.7		素材・化学	10.0
5	電子・電機	11.6	5	素材・化学	11.3	5	情報・インターネットサービス	9.6
6	機械・プラントエンジニアリング	9.7	6	機械・プラントエンジニアリング	8.5	6	水産・食品	9.1
7	自動車・輸送用機器	9.2	7	通信関連	7.7	7	医薬品・医療関連・化粧品	8.6
	運輸・倉庫	9.2	8	電子・電機	6.3		機械・プラントエンジニアリング	8.6
9	銀行	8.7	9	自動車・輸送用機器	5.6	9	運輸・倉庫	7.7
10	素材・化学	7.2		精密機器・医療用機器	4.9	10	銀行	5.7
			10	調査・コンサルタント	4.9			
				マスコミ	4.9			

3. 5月1日現在の活動状況と選考試験の受験社数

5月1日現在、一人あたりのエントリー社数は平均で82.3社。就職活動開始当初(1月調査)は前年同期比約3割減でスタートしたが、3月調査以降、前年同期より約1割減の状態推移している。ただ、今後のエントリー予定社数は9.0社と、前年(7.1社)に比べ積極的だ。

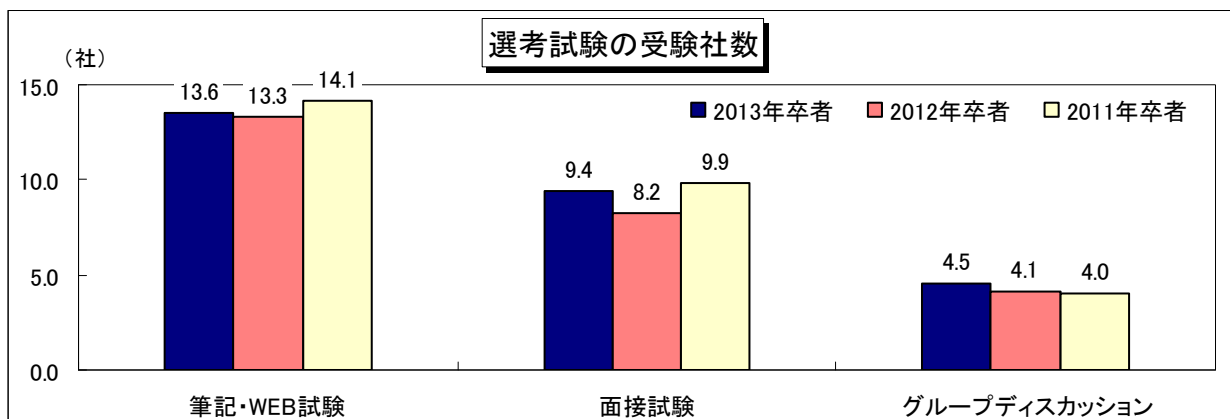
エントリーシート提出社数は20.6社で前年と同水準。先月調査の17.8社からは約3社増えた。セミナー参加社数も前年同期とほぼ同数で、全体的な活動量は前年と変わらない。就職活動が2カ月後ろ倒しになった影響は、エントリー社数がやや少ない点を除けば、もはや目立ったものではなく、選考試験の受験社数についても、選考が遅かった前年を上回っていることはもちろん、一昨年の水準に近づきつつある。

理系の推薦については、「申し込む予定はない」が63.1%と前年を7.8ポイント上回る。推薦利用者のうち86.2%はすでに「選考を受けた」と回答しており、推薦と一般との試験日程はかつてより縮まっている。

5月1日現在の就職活動の状況

	全 体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	国公立	私立
エントリー社数 (社)	82.3	90.1	88.8	90.2	69.6	74.4	70.1	91.7
今後のエントリー予定社数 (社)	9.0	7.1	11.3	8.3	7.6	6.9	4.8	11.8
セミナー・説明会参加社数 (社)	52.0	53.6	57.6	55.0	46.0	41.7	49.6	53.9
企業単独開催のもの (社)	23.2	25.0	26.0	24.9	19.4	19.1	20.5	25.2
合同開催のもの (社)	16.8	17.1	17.9	17.4	15.7	14.2	15.7	17.6
学内開催のもの (社)	12.1	11.6	13.7	12.7	10.9	8.4	13.4	11.1
OB・OG訪問人数 (人)	4.3	4.9	5.3	4.1	3.3	3.2	4.2	4.5
エントリーシート提出社数 (社)	20.6	20.6	22.5	21.2	18.4	18.1	19.7	21.2
工場見学社数 (社)	2.8	2.3	—	—	3.0	2.1	3.0	2.3
研究所見学社数 (社)	1.8	1.8	—	—	1.9	1.6	1.9	1.6

※「今後のエントリー予定社数」「選考中および受験予定の企業数」は、就職活動継続者のみ回答



【学校推薦の申し込み状況】

	2013年卒 (%)	2012年卒 (%)
申し込んだ	19.6	21.2
まだ申し込んでいない	17.3	23.5
申し込む予定はない	63.1	55.3

【推薦利用者の選考試験受験の有無】

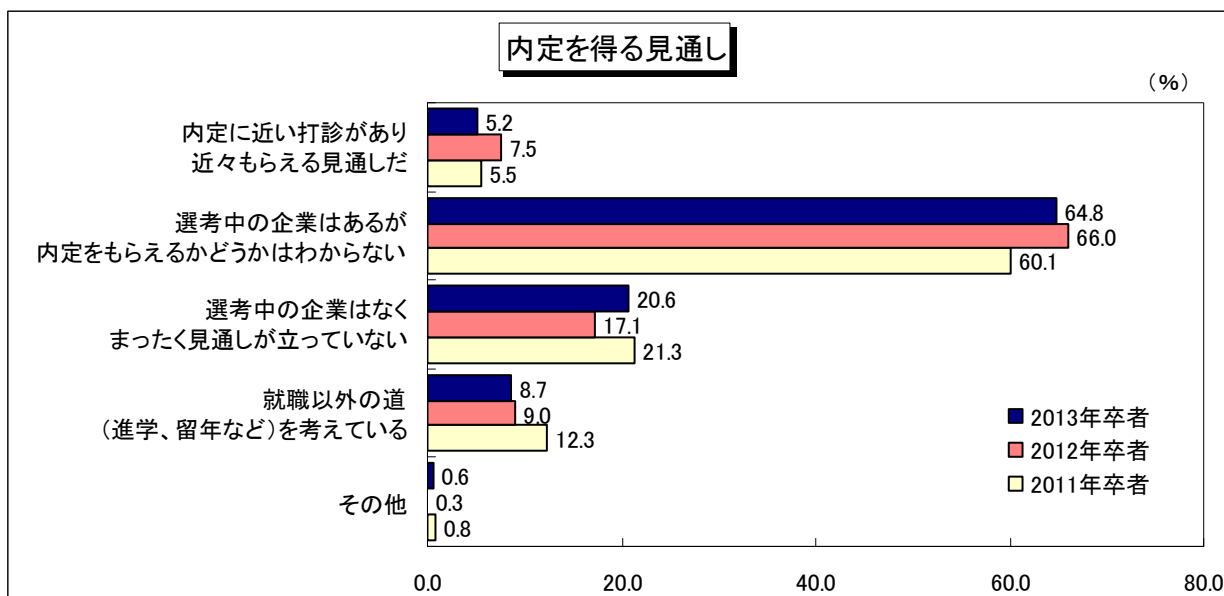
	2013年卒 (%)	2012年卒 (%)
選考を受けた	86.2	65.0
まだ受けていない	8.0	35.0
学内選抜に漏れた	5.7	0.0

4. 就職活動継続者の今後の見通し

5月1日現在で内定を得ていない学生（モニター全体の54.2%）に、今後の見通しを聞いたところ、「内定に近い打診があり近々もらえる見通しだ」は5.2%にとどまり、最も多いのは「選考中の企業はあるが、内定をもらえるかどうかはわからない」で、64.8%と6割を超える。ここに「選考中の企業はなくまったく見通しが立っていない」20.6%を足し合わせると、未内定者の約85%が先の見えない状況にあるようだ。

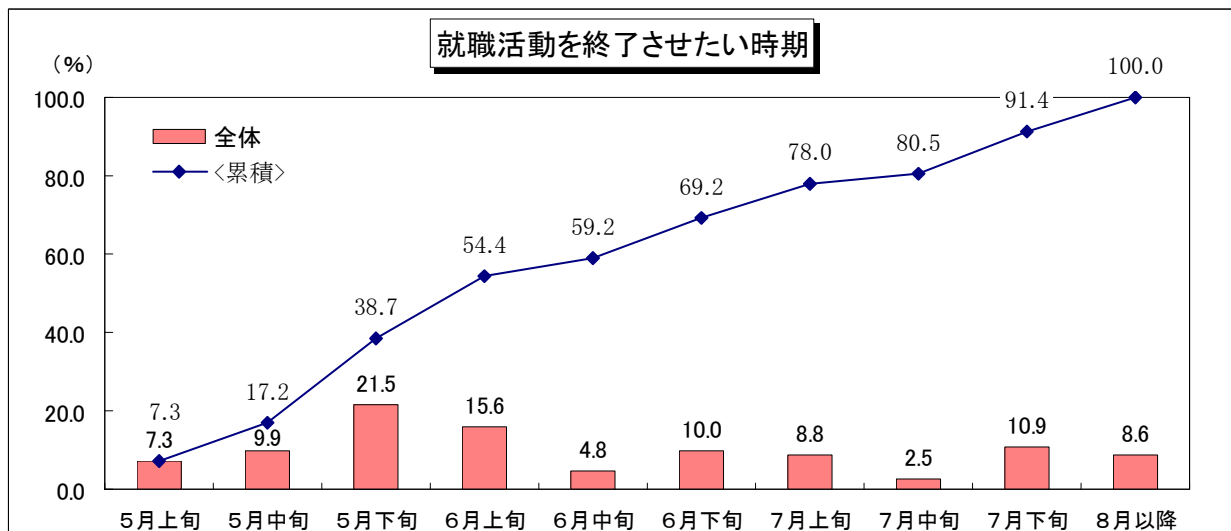
内定者も含め5月1日現在で就職活動を継続している学生（モニター全体の70.4%）に、選考が進行中の企業（持ち駒）の数を聞いたところ、5.1社と前年同期より約1社少なかった。

また、いつ頃までに就職先を決めて活動を終了させたいか、との問いには、「5月下旬」と答えた人が最も多かったが（21.5%）、7月や8月以降との回答もあわせて3割を超えており、夏場以降の長期戦を覚悟する学生も少なくない。



選考進行中および今後受ける予定の企業（持ち駒）社数

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
5月1日現在	5.1	6.2	5.3	5.3	4.7	4.8
4月1日現在	8.6	9.6	9.7	9.7	6.9	6.8

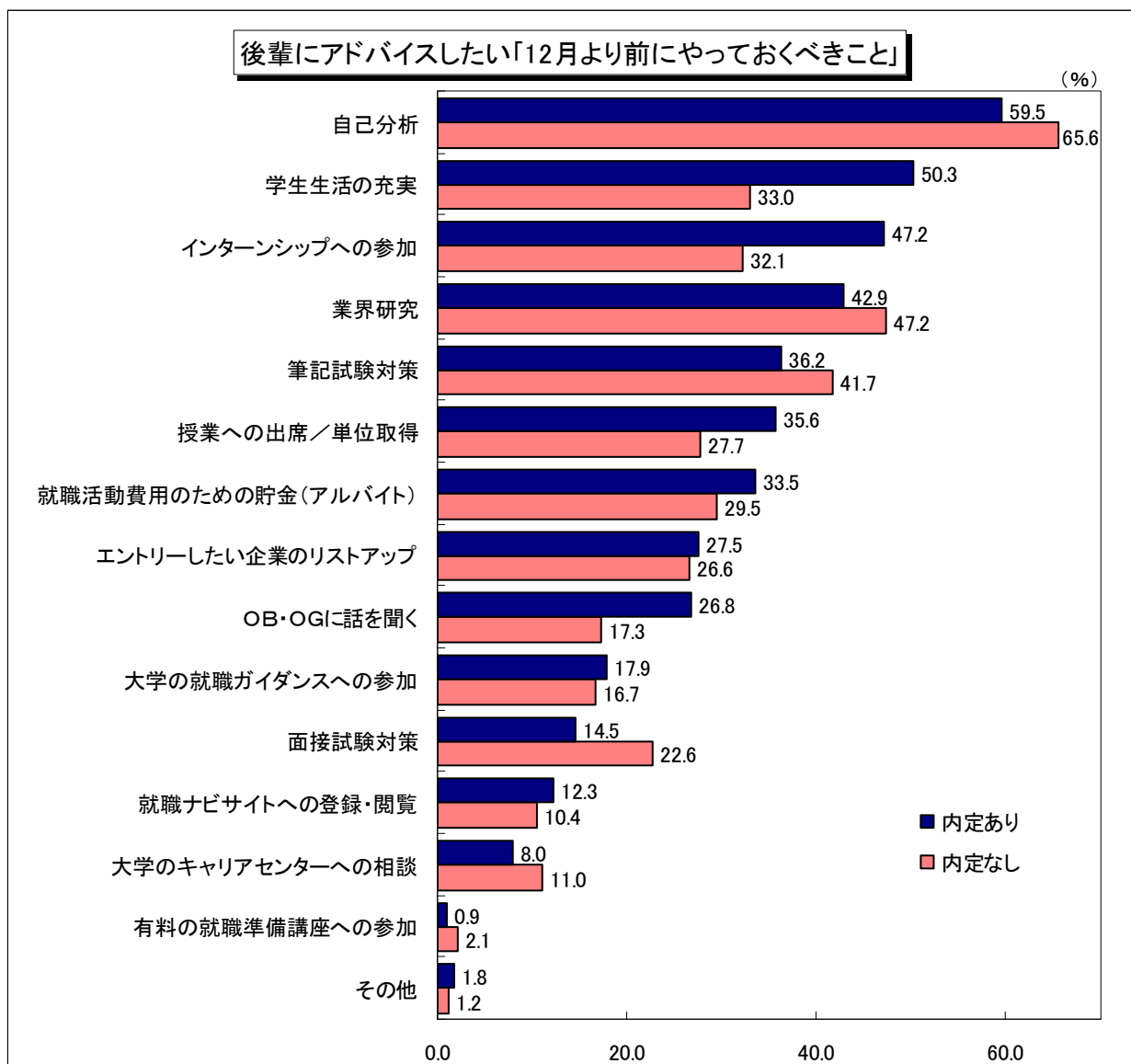


5. 後輩にアドバイスしたいこと

倫理憲章の見直しで就職活動期間が 2 カ月短くなり、十分な準備期間が取れなかったと言われる今期の就活生たち。少々気が早いですが、来年就職活動を行う後輩に向けて、「企業のエントリー受付解禁前（12月より前）にやっておくべきこと」をアドバイスするとしたら、どんなことを挙げたいかを聞いてみた。

あてはまるものを選択肢からすべて選んでもらい、内定の有無別に集計したのが下のグラフだ。両者ともに最も多かったのが「自己分析」。就職活動をスムーズに進めるためにも、早い時期からやっておくべきだったと思っている、ということだろう。

内定ありグループのほうが内定なしグループを大きく上回っているのが「学生生活の充実」。特別な準備をするよりも、日々の学生生活を充実させることが、よい結果につながるということだろう。内定取得者が言うとも、より説得力がある。また、「インターンシップへの参加」も差が大きい。夏休み中などに参加することで、就職について考えるきっかけになったとの経験から、ぜひ後輩にも勧めたいという人が多いようだ。逆に、インターンシップに参加しなかった未内定学生が、「もし参加していれば、今頃は内定をもらえていたかもしれない」との思いもありそうだ。

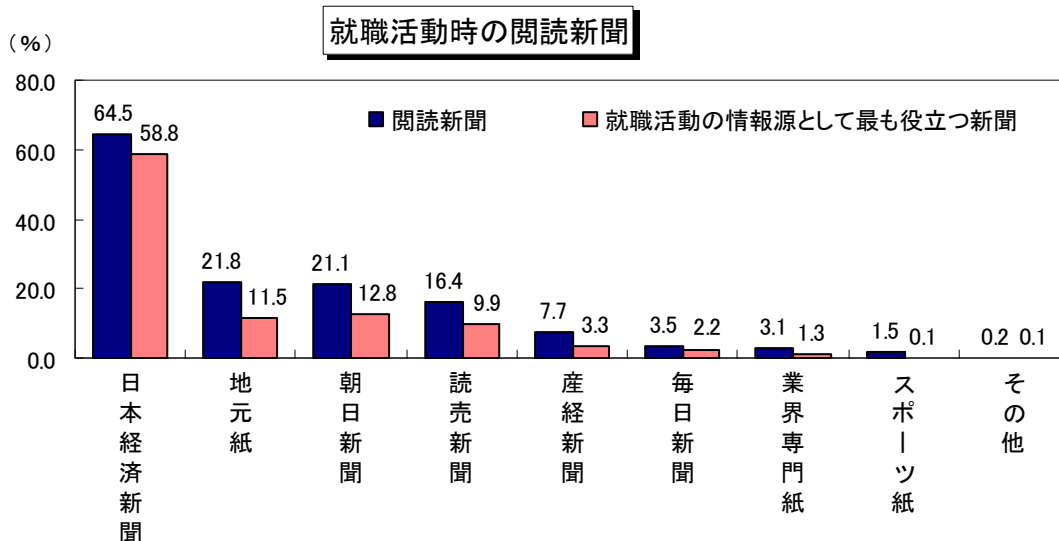


6. 就職活動時の閲読新聞

就職活動中の閲読新聞があるという人（全体の76.5%）に、具体的な新聞名を聞いたところ、「日本経済新聞」が最も多く、64.5%と6割強。次いで「地元紙」21.8%、「朝日新聞」21.1%、「読売新聞」16.4%と続く。

属性別にみると、「日本経済新聞」の閲読率は理系より文系、女子より男子が高い傾向がある。また、内定ありグループも内定なしグループと比較して「日本経済新聞」の閲読率が高い。

就職活動の情報源として最も役立つ新聞には、他紙を大きく上回り「日本経済新聞」（58.8%）が選ばれた。

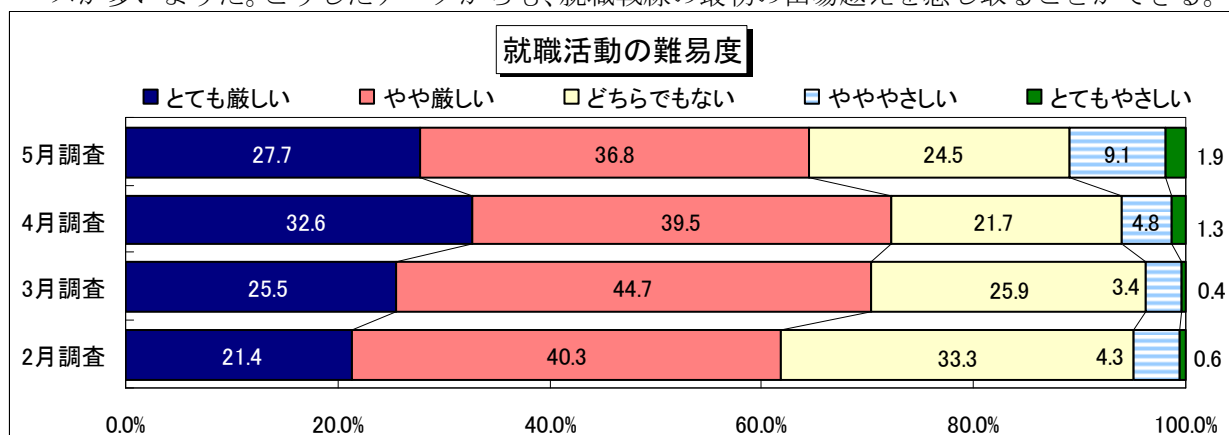


	日経	地元紙	朝日	読売	産経	毎日	業界専門	スポーツ	その他
文系男子	72.4	20.0	18.6	15.8	5.9	2.8	3.7	2.5	0.6
文系女子	64.3	24.5	24.5	13.7	7.2	3.6	0.8	0.8	0.0
理系男子	57.4	20.0	19.6	16.5	12.6	3.0	3.5	1.3	0.0
理系女子	51.7	25.8	25.8	25.8	3.4	6.7	6.7	0.0	0.0
内定あり	74.0	19.3	20.7	12.6	7.7	2.8	4.4	0.9	0.2
内定なし	56.2	23.9	21.5	19.7	7.7	4.1	2.0	2.0	0.2

※表は「閲読新聞」のスコア

7. 就職活動の難易度

就職活動の感触を今月も聞いた（「わからない」と回答した人を除いてグラフ化）。4月までは月を追うごとに「厳しい」と感じる学生が増えていたが、5月調査では一転減少し、代わりに「やさしい」が増加した。無事に内定を得られた学生は、「終わってみるとやさしかった」と振り返るケースが多いようだ。こうしたデータからも、就職戦線の最初の山場越えを感じ取ることができる。



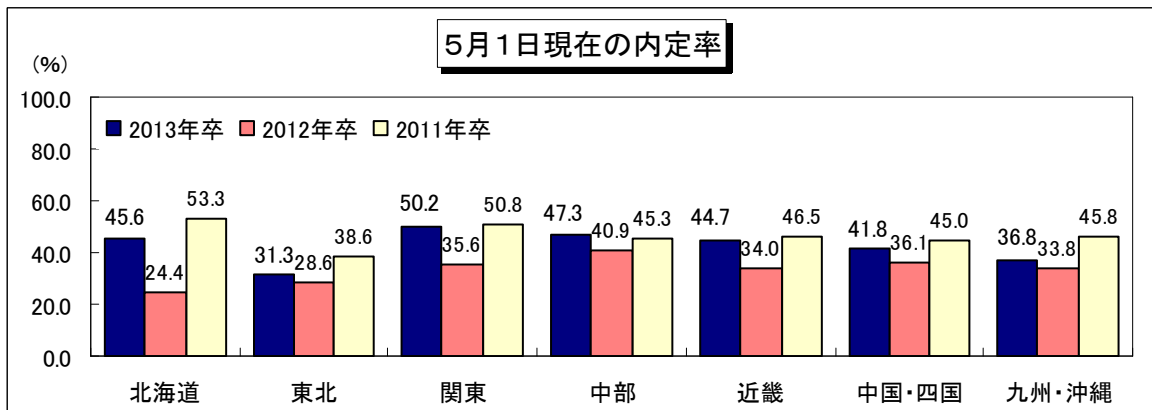
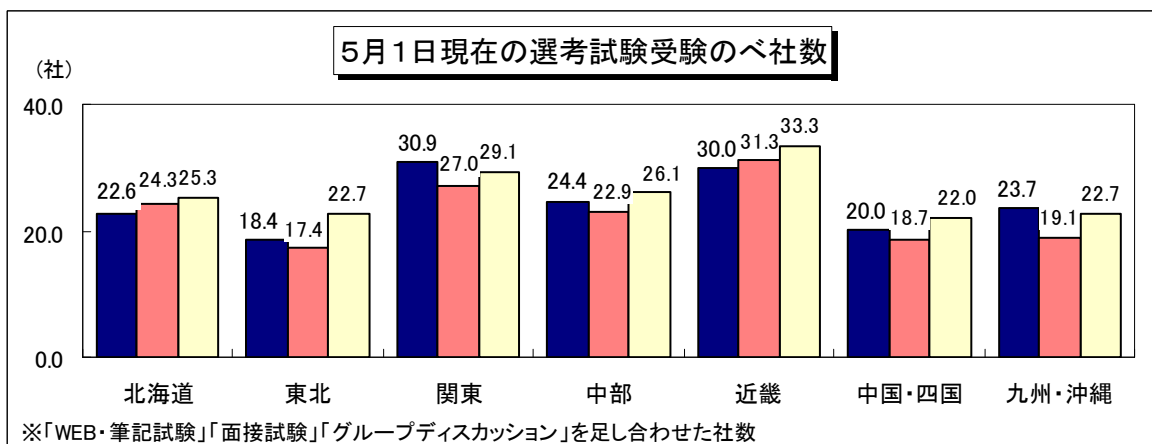
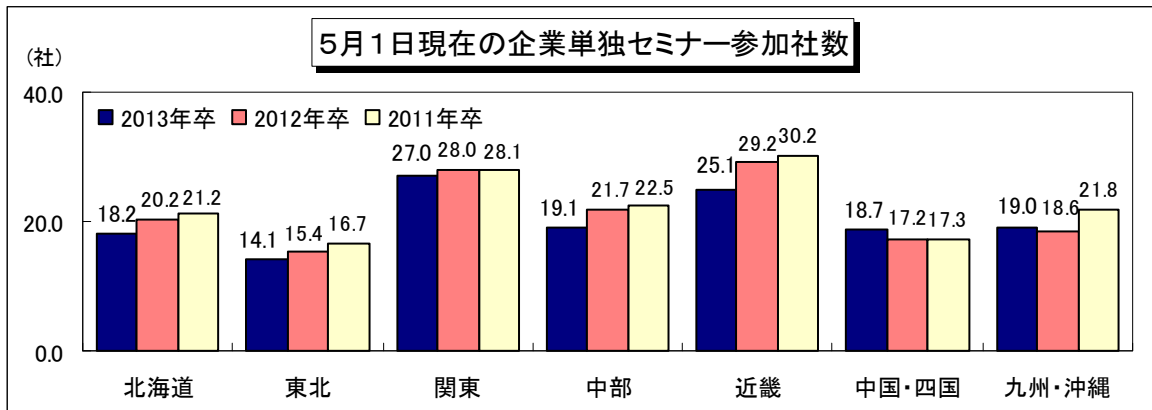
■就職活動に関して思うこと（内定者）

- 無事に内定をいただきホッとした。就職活動が2カ月遅れたことで企業研究が深くできていない学生が多いと、集団面接などで感じた。短くなったからこそフットワーク軽く足を動かし、自分の目で企業を見るのが大切ではないだろうか。 <文系男子>
- 就職活動全体を通して、あまり厳しさは感じられませんでした。期間が短くなった分、危機感を持って準備に取り組んだ結果だと思います。就活において「なんとかなる」思考は危険。大抵なんとかなりません。相応の準備をし、根拠のある自信をもって選考に臨むことが必要だと感じました。 <文系女子>
- 理系だからか、案外楽だった。メディアに踊らされていたように思う。 <理系男子>
- 周囲では早い時期に複数の内々定を得ている学生と、内々定が出ていない学生に大きく二分されている印象がある。2カ月遅れたことで、就職活動開始時までの準備がいかんできていたかで、差が出ているのではないだろうか。 <理系女子>
- 選考フローや採用数などが不透明であることが何よりも問題であると思います。学生は一生を、企業は社運をかけた問題であるというのに、両者がともに自身を偽って、良い情報しか提供しないことにも疑問を感じます。 <文系男子>
- 初めは名前だけで会社を見ていたが、面接の結果などから自分に合うところがどんな所なのか認識できた。選考に落ち続けているときは辛かったが、自分に合うところをみつけるためだったんだと今なら思える。 <理系男子>
- 結局のところ、いかにインターンに行って早いうちから「本気」になれるか。あとは自分と企業のマッチングをいかにロジカルに語れるかにすぎない。 <文系男子>
- 短い期間で就職活動をしているうちに、「なぜ働くのか」「何のために働くのか」がわからなくなってしまった。もっと就職を考える時間をたっぷり取れるような社会ができればいいと思う。 <文系女子>

■就職活動に関して思うこと（未内定者）

- 企業のエントリー受付開始などが2カ月遅れたことにより、企業研究に十分な時間がかけられないこと、そして説明会や選考が被ってしまうことが大変悔しいです。後輩には、早いうちから具体的な企業研究をやることを強く勧めたいと思います。 <文系女子>
- 筆記試験はほとんど通るが、面接になると落ちてしまう状態が続いていて、モチベーションを保つのが難しい。また、持ち駒が少なくなってきてこの先どうしようか悩んでいて、今まで考えていなかった地元就職も真剣に考えようかなと思っています。 <文系男子>
- 推薦を出している子はもう内定をもらっていつているので、少し焦っている。 <理系男子>
- 周囲の友人が内定を得たり、公務員試験など違う進路を選び、就職活動を継続している友人が少数になったため心細い。自分の夢、将来のためくじけずに頑張りたい。 <理系女子>
- 毎日毎日連絡が来るか来ないかヒヤヒヤしています。こんなに精神的にやられるものだとは思いませんでした。自分は社会から必要とされていないのではないかと悩むこともありました。しかし開き直って前向きに今は進めています。 <文系女子>
- お祈りメールをもらってもショックさえ感じなくなった。ニュース番組の中で内定をもらうことができずに卒業した人の特集を見たが、自分もそうなってしまうそうで仕方がないです。 <文系男子>
- Uターン就職での日程の厳しさから、学業との両立が非常に大変だと感じている。 <理系女子>
- 今まで苦労した経験のないゆとり世代には精神的にきつい試練だと感じます。 <文系女子>
- 大学院進学という「逃げ道」があると思ってしまうと、どうしても就活生という意識が薄れてしまうように思う。 <理系男子>
- 就職活動は、社会人になるための準備期間としてとらえています。結局のところ1社にしか行くことはできないので、内定を取ることを目的とするのではなく、働きたいと思えるような企業に巡り合えたらよいと考えます。 <文系男子>

《参考データ》 大学地域別集計



【回答数】 (人)

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
2013年卒	57	67	506	165	226	91	95
2012年卒	45	49	435	154	212	72	78
2011年卒	45	57	398	139	187	60	83

《調査概要》

調査対象：2013年3月卒業予定の全国の大学4年生（理系は大学院修士課程2年生含む）
 回答数：1,207人（文系男子427人、文系女子316人、理系男子340人、理系女子124人）
 調査方法：インターネット調査法
 調査期間：2012年5月1日～8日
 サンプル：日経就職ナビ2013 就職活動モニター

◆本資料に関するお問い合わせ先：03-5804-5567 / 株式会社ディスコ キャリアリサーチ

「日経就職ナビ 就職活動モニター調査」は、株式会社日経HRと株式会社ディスコが大学生の就職活動状況を調査することを目的として実施しています。
 日経就職ナビは株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。